

平成25年度（24年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《就学前教育・保育》

※評価指標

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

基本目標 1 夢と希望を育み、豊かな人間性の基礎づくり

実践目標	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
1 子育て支援の環境づくり	1 健康・安全で情緒の安定した生活環境整備	保護者が安心して就労できる環境の構築	<p>すべてのこどもが心地よく活動できる生活環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育室の環境整備、危険箇所の修繕 ・ 子どもの健康の支援 <ul style="list-style-type: none"> ①保育所訪問の実施 公立保育所 5所 ②県児童福祉行政(保育所関係) 指導監査チェックリストの提出 ・ 保護者と連携し子どもの生活リズムを整える取り組み <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児にふさわしい食生活、早寝、早起き等の啓発 ③所だより、給食室だより等により啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ①保育所訪問の実施 公立保育所 5所実施 (10/16~10/25) ②県児童福祉行政(保育所関係) 指導監査チェックリストの提出 公立5所、認可保育所9園 (100%) ③園所だより、給食室だより配付 (100%) 	B+	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「早寝・早起き等」保護者への啓発方法の工夫とともに、子どもの情緒の安定につながるよう、より一層 努めてほしい。 ・ 年間保育計画の結果報告、また保育過程への指導など、よりきめ細やかに実施できるようにしてほしい。また、職員が研修に参加しやすい環境づくりに努めてほしい。 ・ 子育て広場の参加者の感想を把握し、実施回数や活動内容について、さらに工夫してほしい。また、民間保育所への行政の関わりも一層深めてほしい。 	B+
	2 個々の子どもの発達段階に即した養護・教育	<p>子どものありのままの受容と専門性を生かした養護・教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 養護と教育を一体化した保育課程の編制と指導計画の作成 ・ 保育の専門性を高める保育実践や研修会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各保育所の実態に応じた保育課程の編制 (低年齢児については個別指導計画の作成) <ul style="list-style-type: none"> ①保育課程の提出 ・ 発達段階に応じた保育内容研修 (公立保育所) <ul style="list-style-type: none"> ②学年別研修会の開催 (0・1歳児、2歳児、3歳児、4歳児、特別支援児担当) 各2回 	<ul style="list-style-type: none"> ①平成24年度 全14園所 (100%) ②各2回開催 (100%) 2回の内1回は公開保育を実施。学年別に開催するため、全保育士の参加がしやすくなった。 	B+		
	3 保護者と子育て家庭への支援	<p>家庭教育や地域子育て支援の充実</p> <p>体験保育の場の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者に対し、子どもの様子や日々の保育の意図などを説明し、保護者との相互理解を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ①所だより、クラスだより、の発行 例月1回 他随時 ②連絡帳の活用 毎日 ③保育参観、保護者参加の行事等 年間4~5回 ・ 地域の子育て家庭への施設及び設備の開放、体験保育の 実施 <ul style="list-style-type: none"> ④まちの子育てひろば事業、園庭開放、育児相談等 (市内幼稚園、保育所で実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ①②③全14園所にて実施 (100%) ④市内幼稚園、保育所にて実施 (100%) 子育てひろばへの参加者は利用を喜ばれており、園によっては回数を増やしてほしいという要望もある。 利用しやすいように周知の方法や活動内容について検討する必要がある。 	B-		

平成25年度（24年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《就学前教育・保育》

基本目標 1 夢と希望を育み、豊かな人間性の基礎づくり

※評価指標
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
2 創意に満ち、 信頼される園所経営の推進	1 発達や学びの連続性を踏まえた教育・保育の充実	幼児・家庭・地域の実態と課題に応じた創意ある教育課程の編制と実施	教育・保育課程の編制 地域や家庭の実態を考慮し、幼児の特性に合わせ、発達を見通した調和のとれた適切な教育・保育課程を編成 ①教育委員会へ届出 教育・保育課程に基づく教育・保育活動の実施 幼児理解を深め、一人一人の良さが発揮できる指導の工夫 発達に必要な適切な環境の構成と教育保育内容の充実 ②園内研修・所内研修の実施 ③園・所訪問の実施 (幼稚園：公開保育・研究協議) (保育所：所長との協議)	地域・家庭の実態、幼児の発達に沿った教育活動に努めている ①教育・保育課程の届出(100%) ②保育内容・教材研究の検討 各園所において、研修会の実施 ③全園所にて実施(100%) 保育所の公開保育は、平成25年度より実施予定	B+	・地域・家庭の実態把握にさらに努め、信頼される園所経営とともに、安定した教育・保育の提供をしてほしい。(地域性を理解した教員の配置、児童の育ちに継続して関われる加配教員の配置等への配慮、幼稚園・小学校の連携、施設設置場所など) ・関係者評価の公表方法等の統一を検討し、より広く知っていただけるようにさらに工夫してほしい。 ・保育所・幼稚園・小学校・中学校との連携について、さらにその方法を工夫し、連携を深めるよう努めてほしい。	B+
	2 評価システムや情報提供の推進	外部評価による園所運営	宍粟市学校園評価の実施と結果の公表 ①学期ごとに自己評価を実施 ・取組みをふり返り、成果と課題について共通理解する。 ②関係者評価委員会を年間2回以上実施 ③関係者評価委員会の結果と公表 保護者・地域への公表と設置者への報告 ④教育委員会による評価ヒアリングの実施 ・成果及び課題の報告 保護者・地域への情報発信 各幼稚園・保育所からの定期的な配布 ⑤子どもの活動や育ちが見える園だより・クラス便りの発行 ・園だより：毎月 ・園報・クラスだより：随時	①全園所にて実施(100%) ②幼稚園：年間2回以上の実施 保育所においては、平成25年度より実施予定 ③保護者への公表(100%) 今後全戸配布等地域への公表についての検討を要する ④全園所において実施(100%) ⑤全園所より発行(100%)	B+		
	3 学校教育との連携推進と円滑な接続	保・幼・小・中の連携推進	合同研修・研究会の実施 カリキュラムに基づいた継続的な交流 ①教育研究大会に全園所より参加 研究発表の実施(土万幼稚園・神戸幼稚園) 合同行事・絵本の読み聞かせやふれあい交流等を継続的に実施 ②年間計画の作成 保育所・幼稚園と小学校が連続した関わりをするために、連絡会を実施 ③指導要録の作成及び小学校への送付	①全園所より参加(100%) 教育・保育について、異校種間の共通理解の機会となっている ②幼稚園：年間計画の作成 保育所においては、出来る範囲で交流を実施、今後の推進について検討 ③指導要録の作成・送付(100%)	B+		

平成25年度（24年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《就学前教育・保育》

基本目標 1 夢と希望を育み、豊かな人間性の基礎づくり

※評価指標
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	事務事業名(評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員の意見・感想	委員評価	
3 一人一人の特性に応じた指導の工夫と充実	1 健康教育の充実	健康な心や体の育成	保幼小中連携食育カリキュラムに基づいた食育の取組 基本的な生活習慣の定着 進んで運動をしようとする取り組みの推進	野菜の自園栽培、料理体験の実施 ①畑で育てた野菜を使って料理体験の実施 家庭の状況を把握し、こども一人一人の生活の連続性に応じた指導 早寝・早起き・朝ご飯の啓発 基本的な生活習慣の大切さについての意識付けを推進（生活点検表等の実施） ②アンケート等により、実態の把握（幼稚園） 友だちと係わりながら、一人一人が意欲的に取り組める運動遊びの取組 ④チャレンジカード・がんばりカード等の工夫	①栽培・料理体験の実施(100%) ・食べることへの興味をもち、苦手なものも少し食べ見ようするなど、偏食改善の様子がみられる 生活点検表・おたよりなど活用した啓発(100%) ②幼稚園アンケート ・90%以上が、生活リズムが良くなったとの回答（早寝早起きについては継続した啓発や更に働きかけが必要。点検表の工夫等、今後の啓発を検討） ④取組の実施(100%)	B+	・「早寝・早起き・朝ご飯」を啓発した結果データを活用するとともに、子ども一人ひとりの生活に応じた指導に、より一層努めてほしい。 ・宍粟市の加配のあり方はとても充実しているが、教員・加配教員が日々積上げている教育や取組に対してエールを送ってほしい。サポートファイルは就学にもつながり、当然、就学後にも引き継いでいくもので、本当に必要なものである。後戻りすることなく、支援が必要な全ての子どもについて作成できるよう努力してほしい。 ・未就園児を含む子ども・保護者と地域の皆さんとの交流についてさらに工夫し、「人とかわる力」の育成に努めてほしい。	B+
	2 自立と協同の態度を培う取組の推進	友達と試行錯誤して遊ぶ体験活動の充実	「協同する経験」の組織的・計画的な指導 言葉で表現する意欲や態度の育成	幼児理解に基づく、教育・保育計画の作成 ①長期指導計画（年間指導計画・月の指導計画） 創意ある保育の取り組みに向けた教材研究・研修会への参加 運動・音楽リズム等実技研修への積極的な参加 ②一人一人の幼児の発達や集団での育ちを見通した、教育保育環境の工夫 （ごっこあそび・コーナー遊び・クラス活動・園行事等）	こどもの姿に沿った指導計画の作成 ①全園所にて作成（100%） 全幼保より参加(100%) ②幼稚園アンケート ・95%以上が、園はこどもの発達に応じた経験が出来るようにしている。行事等で我が子の成長が感じられると回答	B+		
	3 人権教育の推進	多様な体験を通した「人とかわる力」の育成	様々な人や自然と触れあう機会の充実 人権研修会の実施	なかよし広場の実施 ①計画的な実施（行事参加・発育測定・園庭解放等） 体験活動の充実 ・友だちとかかわって遊ぶ体験の充実 ・地域の施設、地域ボランティアとの積極的な交流 人権教育研修会への全職員の参加 ③宍粟市就学前部会に参加 ・積極的に参加し、人権感覚の研鑽に努める	①定期的な実施 ・回数(幼保) 395回 ・参加人数(幼保) 2525人 ②幼稚園アンケート ・98%以上が登園を喜び、友だちとかかわって遊んでいると回答 地域行事参加、老人施設訪問等 ③全園所より参加(100%)	B+		
	4 多様なニーズに応じた教育活動の推進	特別支援教育の充実	教育連携連絡会の実施 就学指導委員会の実施 特別支援保育・教育会議の実施	保育所・幼稚園・小・中学校、福祉機関と連携し支援体制の構築 ①中学校区別に実施 講師：川崎医療福祉大学 重松孝治氏 幼児児童生徒の適正な就学を図るため家庭と連携し一人一人のニーズに合わせた支援を実施 ②就学指導委員会支部委員会 ③宍粟市就学指導委員会 加配教諭による一人一人の幼児の状況に応じた支援・指導 個別の指導計画・支援計画の作成 ④福祉部局と連携しサポートファイルを作成	①中学校区にて実施（8月23・27日） ・発達障害等のこどもへの、適切な関わり方について研修の場となっている ②中学校区にて年間2回の実施 ③宍粟市全体で年間2回の実施 ④個人シートの作成（H24年度 18部）	A		

平成25年度（24年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《就学前教育・保育》

※評価指標

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

基本目標 1 夢と希望を育み、豊かな人間性の基礎づくり

実践目標	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
4 家庭や地域社会・関係機関との連携の推進	1 地域の人材等の積極的な活用	保護者・地域の方による、読み聞かせボランティアの推進	保護者の保育参画の機会の推進 地域ボランティアとの連携強化 ・ボランティアの協力により読み聞かせ機会の充実 ①市立幼稚園、市立保育所 全20カ所で実施 ・家庭での読み聞かせの機会を推進 ②絵本の貸し出し、図書館の利用など ・絵本に親しみ、就学後の読書活動の基礎づくり ③各園所で絵本コーナーの整備	①24年度 地域のボランティア、保護者ボランティアの協力により市立幼稚園、保育所全20箇所で行った読み聞かせの実施(100%) ②市立幼稚園、保育所全20箇所で行った貸し出し、図書館の利用実施(100%) ③読書活動推進事業 経費活用 市内幼稚園15園、保育園所14園に補助(各園所あたり10,000円)	B+	・保護者・地域の方に参画、協力をいただきやすい工夫をしながら、子ども達の「人とかかわる力」の育成に努めてほしい。 ・災害時の避難体制について、園所の実態(避難場所の実態含む)に即したものとし、マニュアルの作成や訓練に努めてほしい。	B+
	2 安全・防災教育の充実	安全・防災教育の推進	交通安全教室の実施 避難訓練の実施 防災訓練の実施 ・年間計画に基づく、うさちゃんクラブの実施 ①交通安全教室(うさちゃんクラブ)市内全園所実施 ・防災計画に基づく火災・地震・不審者に対応する訓練の実施 ②避難訓練の実施 ③消防署・地域の関係機関と連携した防災教室の実施	①市内全園所実施(100%) ②③市内全園所実施(100%)	B+		
5 0～5歳児までの一貫した教育・保育の新たな環境づくり	1 就学前の教育・保育を推進する委員会や地域での検討会等の実施	幼保一元化の具体的推進 就学前の教育・保育を推進する委員会の設置	(1)宍粟市就学前の教育・保育を推進する委員会・部会の開催 (2)各中学校区等の地域の検討委員会の開催 (1)委員会等の開催状況 宍粟市就学前の教育・保育を推進する委員会・部会の開催 委員会 5回開催 3部会 計12回開催 (2)地域の検討委員会の開催状況 千種中学校区 7回開催 波賀中学校区 5回開催 一宮南中学校区 3回開催 一宮北中学校区 3回開催 山崎南中学校区 3回開催(戸原地域 1回開催) 菅野・土万小学校区 4回開催 伊水・都多小学校区 4回開催	(1)「しそくこども指針」の策定、「認定こども園における教育・保育の質の向上・充実のしくみ」の策定、「宍粟市認定こども園運営ガイドライン」の策定 (2)千種中学校区地域の委員会の方向性の決定(認定こども園設置の決定)	B+	・子ども達の生きる力の基礎を育成する大事な時期の教育・保育施設についての協議であり、保護者・地域の方に十分な説明に努めてほしい。 ・幼稚園・保育所ともに教職員の資質向上に研修は欠かせない。どちらの所属であっても研修機会が一緒になることが望ましいが課題だと思うので、今後も研修に参加しやすい環境づくりをしてほしい。	B+
	2 就学前の教育・保育にかかる職員研修の充実	各種研修会の実施と職員の参加	教育研修所事業幼稚園部会・保育所部会研修の実施 教育・保育内容、環境構成についての検討 基礎研修・専門研修を実施し、資質向上を図る ①学校園指定研究 ②幼稚園職員研修 保育所職員研修 ③宍粟市幼児教育研究会実施 ・公開保育 ・指導助言及び講演	①研究大会実践発表：神戸幼稚園 ②年間7回実施 運動・ふれあい遊び(1回) 音楽実技(4回) 特別支援教育(2回) ③保育公開：染河内幼稚園 講師：兵庫教育大学准教授 鈴木正敏先生	B+		

平成25年度（24年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《学校教育》

基本目標 1 育もう夢と希望 拓こうまちの未来 創りあげよう宍粟の教育

※評価指標

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	事務事業名(評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
1 宍粟に生き、宍粟を活かす人づくり	1 宍粟の良さを知り、宍粟を愛する子どもの育成	市内教育資源を最大限に活用した系統的な体験活動の実施状況	①自然学校(対象:小学校5年生) ・宍粟市内実施:全校H22年度より (100%) ・カヌー体験、宍粟の山への登山 (100%) ②ふるさと宍粟探検隊(対象:小学校4年生) ・社会科副読本を活用した「宍粟の自然、歴史、産業学習」(100%) ・宿泊体験を通じた仲間づくり(宿泊:7校) ③環境体験事業(対象:小学校3年生) 年3回以上(100%) ・校区の自然環境を活用した自然体験例、学校田、伊沢川、国見山 ④トライやる・ウィーク推進事業(対象:中学校2年生) (100%) ・地元資源を活用した職業体験 ⑤共通 ・地域人材の活用及び交流 (100%)	①確かな学力状況調査より 「自分の住んでいる地域が好きである」児童生徒の割合 H24(宍粟市:全国) 小4 88.0%:89.5% 小6 89.5%:85.5% 中2 87.4%:79.2% H23(宍粟市:全国) 小4 90.4%:88.9% 小6 89.8%:84.4% 中2 85.7%:78.0% ②成人式 出席者の割合 H24 82.3%(405名/492名) H23 81.7%(445名/545名)	A	・子ども達が自分の住んでいる宍粟・地域が好きと言え、成長できるよう、地域の良さを活用した地域への愛着を深める取組みをさらに進めてほしい。 ・「トライやる」アクションとは、キャリア教育を見直した結果の取組みであるが、「トライ」やる事業の受入事業所の評価も参考に、さらに工夫し、生徒の郷土への愛着をより一層深められるように努めてほしい。	B+
	2 宍粟で”活躍”するキャリア教育の推進	既存事業(トライやる・ウィーク推進事業)の見直し・改善状況	①「トライやる」アクションの取組 ②「トライやる・ウィーク」受入事業所の評価 ①地域の協力を得て、校区全体のクリーン作戦などの新たな取組を実施 ②事業所アンケート結果 ・地域にとって有益な活動だ 69% ・来年以降も協力したい 98%	①地域の皆さんとのふれあいや共同作業により、郷土への愛情・愛着の育成を図る一つの取組となった。 ②地域の特性・産業を踏まえた、進路への意欲・関心の一層の向上に向け、課題を検討する必要がある。(生徒アンケートで「自信が持てた」が49.8%になっていることも課題)	B+		
	3 宍粟につながる進路指導の推進	高校との連携体制の確立状況	①千種中・千種高校の取組状況(H24) ②中高連携千種高校への進学状況 ①千種中・千種高校の取組 ・中高合同職員会議の実施(隔月1回) ・中高連携授業の実施(年間6回程度) ・中高合同行事実施(体育祭、文化祭) ②千種中から千種高校への進学率 H23 59.1% H22 68.6% H21 69.2%	市内高校充足率(H24 94.5% H23 88.5%) H24 伊和 78.8%(63/80) 千種 92.5%(37/40) 山崎 99.3%(278/280) H23 伊和 73.8%(59/80) 千種 80%(32/40) 山崎 93.9%(263/280)	B+		

平成25年度（24年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《学校教育》

基本目標 1 育もう夢と希望 拓こうまちの未来 創りあげよう宍粟の教育

※評価指標

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
2 社会の変化に対応する学校づくり	1 市の特性を踏まえた学校規模の適正化	学校規模適正化実施後の児童の状況	千種小学校保護者アンケート 千種小での評価 (保護者) 統合は子どもたちに良い影響を与えたか よい：99% (児童) 仲良くできているか できている：99%	千種中学校区における学校規模適正化の実施により、教育環境の一層の充実を図ることができた。今後も児童・保護者・地域住民の意見を取り入れた、地域総がかりの学校、開かれた学校づくりに努めていきたい。	B+	<ul style="list-style-type: none"> ・学校規模適正化が実施された千種小学校で、子ども達にとって良い影響を与えたのかに対する保護者の意見や、実際にどのような成果があがったかを評価し、今後の学校規模適正化実施に向けて活かしてほしい。 ・今後も、小学校から中学校へ滑らかな接続を図るよう、工夫・努力してほしい。 ・今後も学力の向上に努めてほしい。 	B+
	2 義務教育9年間の連続した教育体制の構築	小学校教科担任制(兵庫型教科担任制)実施状況	教科担任制実施校数 中1ギャップ、不登校等を防ぐため、中学校のスタイルにいち早く慣れるために、小学校高学年で教科担任制を導入。 ①小学校 11校 5、6年の国語、算数、理科、社会の中で教科担任制を実施する。	長期欠席中学1年生 H24 2.7%12名/452名 不登校中学1年生 H24 0.7%3名/452名	B+		
	3 多様なニーズに応える学習指導の確立	宍粟市「確かな学力」学習状況調査経年比較	経年比較結果 経年比較 (H22とH24) 小6年の国語と算数における標準スコアのアップ率 (2年前との比較) 中2年の国語と数学における標準スコアのアップ率 (2年前との比較)	経年比較 (H22とH24) 小6年 国語 3. 2ホ' イト7フ' 算数 2. 1ホ' イト7フ' 中2年 国語 3. 3ホ' イト7フ' 数学 3. 7ホ' イト7フ'	B+		

平成25年度（24年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《学校教育》

基本目標 1 育もう夢と希望 拓こうまちの未来 創りあげよう宍粟の教育

※評価指標

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
3 教師力を高める学校づくり	1 学校園所・教職員の主体的な研修の促進	各学校での研修推進状況の促進	校内研修実施状況 ①校内研修の実施 H24 小中 100% ②公開授業の実施 H24 小中 100% ③西播磨、播磨西、西人教、市教委指定による研修推進 H24 一宮南中(家庭科) 河東小(家庭科) 波賀小(道徳) 千種中校区(人権) ④校内での紀要の作成 ⑤小中連携人権教育指導計画の作成及び推進 100%	①校内研修の実施 小中 100% ②公開授業の実施 小中 100% ③西播磨、播磨西、西人教、市教委指定による研修推進 H24 一宮南中(家庭科) 河東小(家庭科) 波賀小(道徳) 千種中校区(人権) ④校内での紀要の作成 ⑤小中連携人権教育指導計画の作成及び推進 100%	A		
	2 学校園所・教職員の活性化	学校と連携した指定研究の促進状況	指定校数及び内容 H24 ・「確かな学力」育成プラン 全中学校区 ・読書活動推進事業 全学校園所 ・へき地教育研究大会 1中学校 ・出会いふれあい赤ちゃん教室 3中学校	H24 ・「確かな学力」育成プラン 全中学校区 ・読書活動推進事業 全学校園所 ・へき地教育研究大会 1中学校 ・出会いふれあい赤ちゃん教室 3中学校連携に関する調査研究 全中学校区	A	・教員研修は県・市独自など実施されており、教員の資質向上には必要だが、教員の負担超過にならないよう研修内容の精選も課題として今後検討してほしい。 ・「出会いふれあい赤ちゃん教室」は、幼稚園児と中学生の交流事業で、中学生が自分が必要とされていることを感じることは心の育ちにも良い影響を与え大変大切だと思う。 ・引き続き教職員の能力開発に努めてほしい。	A
	3 宍粟市教育研修所の機能強化	大学との協力関係による市教育研修所体制の整備と改善	兵教大・近大姫路大学連携研修会等の実施回数	H24年度 ①兵教大との連携 教職員の能力開発 各9回(マネージメント研修) ②近代姫路大学との連携 教職員の能力開発 各1回(宍粟市初任者研修)	H24 ①兵教大との連携 教職員の能力開発 各9回(マネージメント研修) ②近代姫路大学との連携 教職員の能力開発 各1回(宍粟市初任者研修)	A	

平成25年度（24年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《学校教育》

基本目標 1 育もう夢と希望 拓こうまちの未来 創りあげよう宍粟の教育

※評価指標

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
4 地域総がかりの学校づくり（「チーム宍粟」の実現）	1 「チーム宍粟」教育推進体制の確立	PDCAサイクルによる改善実施状況	学校評価結果の公表 学校評価結果公表率 100%	教育活動に対する保護者・地域の理解を得ることができ、あわせて学校経営への積極的な参画を促すことができた。評価結果も踏まえ、より一層、開かれた学校づくりに努める必要がある。	A	・評価結果の公表も含め、より一層 開かれた学校づくりに努めてほしい。 ・引き続きボランティアの協力を得て、教育活動の充実に努めてほしい。 ・教師が元気であることがまず大切である、パソコンの全員配置によって、教師の負担軽減や教師間のやりとりが活発になるなどのメリットもあるが、情報流出・盗難防止には注意が必要である。	B+
	2 家庭・地域と連携した教育活動の充実	家庭・地域と連携したプログラム実施状況	家庭・地域と連携したプログラム名及び実施率 ①読書ボランティアを活用した読書活動 小中 100% ②地域人材を活用した授業の実施 小中100% ・小しめ縄づくり、米作り、環境教育、自然学校等 ・トライやる・ウィーク及び「トライやる」アクションの実施	①読書ボランティアの協力による読書活動 小中 100% ②地域人材を活用した授業の実施 小中100% ・小しめ縄づくり、米作り、環境教育、自然学校等 ・トライやる・ウィーク及び「トライやる」アクションの実施	A		
	3 教育現場の裁量拡充と支援体制の構築	教師の事務負担軽減に向けた取組の内容及び達成率	①各校へ個人用PC配置 100% ②市研修所共有フォルダ設置 100% ③リスメールの整備 100% ④事務負担状況調査 勤務時間適正化対策プランの推進状況調査の実施 ⑤業務改善推進委員会の実施 年2回実施	①各校へ個人用PC配置 100% ②市研修所共有フォルダ設置 100% ③リスメールの整備 100% ④事務負担状況調査 ・勤務時間適正化対策プランの推進 状況調査の実施 ⑤業務改善推進委員会の実施 年1回実施 現場の裁量権の拡充や使用の自由度などについて意見もあり、その点は課題と認識している。今後、検討していきたい。	B+		

平成25年度（24年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《学校教育》

基本目標 1 育もう夢と希望 拓こうまちの未来 創りあげよう宍粟の教育

※評価指標
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	事務事業名(評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
5 健やかな心と体を備えた人づくり	1 健康教育の充実	”早寝・早起き・朝ご飯”啓発活動の実施状況(宍粟市確かな学力調査より)	生活状況調査 夜10時ごろまでに寝ている割合 朝6時30分までに起きている割合 朝食をきちんと食べている割合	H24年度版(宍粟市：全国) 小4年生 88.3%：78.1% 小6年生 77.3%：52.4% 中2年生 28.0%：17.1% (中2 11時頃までに寝る 80.3%：60.2%) H24年度版(宍粟市：全国) 小4年生 82.4%：63.9% 小6年生 77.3%：56.5% 中2年生 97.3%：56.6% (中2 6時までに起きる 48.8%：9.4%) H24年度版(宍粟市：全国) 小4年生 94.0%：93.9% 小6年生 94.3%：94.2% 中2年生 94.4%：92.1%	A		
	2 体育・スポーツ活動及び文化活動の充実	部活動の補助金額	①部活動道具補助金 ②大会派遣に係る補助金	①部活動道具補助金 250万円 ②大会派遣に係る補助金 850万円 一人あたり約8,500円 芸術面の取組の今後の課題と考えている。	B+	・引き続き”早寝・早起き・朝ご飯”の保護者への啓発等に努めてほしい。 ・体育面とあわせて文化面の活動の充実についても検討してほしい。 ・引き続き、道徳・人権教育の充実、生徒指導体制の充実に努めてほしい。	B+
	3 教育活動全体を通じた道徳・人権教育の確立	人権教育推進状況	①全体計画作成状況 小中100% ②年間指導計画作成状況 小中100% ③小小・小中連携指導計画作成 小中100% ④保幼小中連携人権研修実施状況(各町人教、同教活動) 全中学校で実施 ⑤市人権教育推進検討委員会での検討・改善 年2回実施 ⑥校内人権研修の実施 小中100% ⑦宍粟市人権教育講演会 年1回	①全体計画作成状況 小中100% ②年間指導計画作成状況 小中100% ③小小・小中連携指導計画作成 小中100% ④保幼小中連携人権研修実施状況(各町人教、同教活動) 全中学校で実施 ⑤市人権教育推進検討委員会での検討・改善 年2回実施 ⑥校内人権研修の実施 小中100% ⑦宍粟市人権教育講演会 年1回 体制の確立により、今後内容の充実が課題と考えている。	B+		
	4 生徒指導支援体制の確立	不登校対策事業(適応教室)と育成センターの充実	①スクールカウンセラーを囲む会 ②育成センターの相談件数	①スクールカウンセラーを囲む会 月1回 ②育成センター相談件数48件(電話相談、面接相談)	B-		

平成25年度（24年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《学校教育》

基本目標 1 育もう夢と希望 拓こうまちの未来 創りあげよう宍粟の教育

※評価指標

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	事務事業名(評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
6 安全・安心の学校づくり	1	危機管理体制・マニュアルの整備	”宍粟市 学校危機管理マニュアル(仮)”の整備	学校危機管理マニュアル整備状況 ①宍粟市地域防災計画 ②宍粟市避難所運営マニュアル ③アレルギー疾患対応 ④いじめ対応	①宍粟市地域防災計画(完成) ②宍粟市避難所運営マニュアル(作成中) ③アレルギー疾患対応(未作成) ④いじめ対応マニュアル(完成) ③食物アレルギーの児童・生徒の対応について、養護教諭を中心に家庭と連携をとって対応している。(除去食の給食の提供、また弁当の持参依頼など) エピペン処方者がいる学校では、全教職員が対応できるように研修を実施し、緊急対応に備えることができた。 現在、②避難所運営マニュアル③アレルギー疾患対応マニュアルは、県ガイドライン等を活用しているが、市独自のマニュアル作成に向け対応中である。	B-	
	2	地域の特性を踏まえた防災・防犯教育の推進	防災教育実施状況	地震を想定した避難訓練 年1回以上実施 防犯教室 年1回以上実施	地震を想定した避難訓練 年1回以上実施 小中100% 防犯教室 年1回以上実施 小50% 中	B+	・アレルギー疾患の対応や、アナフィラキシーでエピペン処方者への対応は万全にできるように努めてほしい。 ・避難訓練のほか、防犯訓練も必要だと思う。 また、地域の特性を踏まえてとあるが、市全域、地域限定のことともあると思うので検討が必要だと思う。
	3	”地域で守る”学校安全体制の確立	見守り隊の組織状況	見守り隊の組織状況	①組織状況 小学校 ②点検状況 小毎年実施	①組織状況 小学校 100% ②点検状況 小毎年実施 100%	A

平成25年度（24年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《社会教育》

基本目標 1 共に学び共に支えあう宍粟の生涯学習の推進

※評価指標

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	事務事業名(評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
1 だれもが学べる学習環境づくりの推進	1 だれもが参加できる生涯学習事業の推進	宍粟市民大学、高齢者大学、青い鳥・くすの木学級の開催	開催回数 参加者数 市民がそれぞれに目的・目標を持った講座を選択し自主的・自発的に参加できる市民大学を開催。 高齢者大学は、生きがいづくり、社会参加を促進するため開催。また、身近な地域（各町内）で開催することで高齢者も参加しやすいこととしている。 青い鳥・くすの木学級は身体に障がいのある方の学習ニーズを反映するために学級生による実行委員会を開催し、毎年の取組内容に変化を持たせ、学習機会を提供し社会参加を促す。	それぞれの講座において、交流や自己研鑽に努めることができた。 宍粟市民大学は、新規入学が25名と例年より増加。学ぶ機会が選択できることなど市民ニーズに合った事業となってきた。 高齢者の就労継続やボランティア活動などそれぞれの生活様式の変化が影響し、参加数の伸びは鈍化している。 (実施回数・参加人数) 市民大学 43講座 577人 高齢者大学 57講座 1,295人 青い鳥・くすの木学級 8回 113人 サポーター51人 青い鳥・くすの木学級視覚障がいのある方、聾唖の方、それぞれの学習機会場の場としており、参加人数など数値での評価ではなく、この活動があることでボランティアの活動や両者の交流、またボランティアの方々と日常生活の中でつながりができ、共に生活するというお互いの意識の高揚を図るとともに、障がいある方にとっての実際の支援につながるなど心強く思っていたり、この教室の中では現れない効果もたくさん出ている。	A	・市内4高齢者大学それぞれムードや内容が多少異なると思う。年1回程度でも学生会や情報交流の機会があったらいいと思うので検討してほしい。 ・青い鳥・くすの木学級について、学習機会場の場であり、ボランティアの方との日常生活のつながりの場でもあり、引き続き工夫した取組みに努めてほしい。 ・今後もボランティアの方の協力を得て、参加しやすい学習機会の提供に努めてほしい。また、地域リーダーの育成にも努めてほしい。 ・生涯学習センター登録団体の方々の協力を得るとともに、新たな地域リーダーの育成の取組みも進めてほしい。 ・スポーツ施設の利用者数はわずかだが増加している。生涯スポーツの普及に向け、引き続き努力してほしい。	B+
	2 学んだことが地域で活かせる事業の充実	地域学習のリーダー育成 放課後子ども教室指導ボランティア 手話通訳、要約筆記等ボランティア活動の場の提供	ボランティア活動の状況 地域のリーダーやボランティアとして地域の活動や社会教育事業に参加するなど活動者の育成に努める。	市の講演会などに手話通訳、要約筆記ボランティアの協力を得て全ての市民が参加しやすい学習機会を提供できている。 放課後子ども教室、青い鳥、くすの木学級においてもボランティアの協力のもと事業実施ができています。	B+		
	3 学んだことがみんなに広がりつながる取組の推進	市美術展、文化展など学習成果発表の機会 生涯学習センターの登録団体制度により学びの成果を地域や生涯学習事業で活かす	出品数、来場者数 登録団体数 宍粟市美術展は、5部門から成り、概ね240点が出品されている。各町の文化展においては活動の登録団体、サークル、保育所、幼稚園、小学校、中学校の児童生徒の作品が展示されている。	美術展出品数 日本画 30点(5点)・洋画 35点(7点) 写真 85点(2点)・書 42点(8点) 工芸 48点(3点) 計240点(特別出品25点) ()はうち数各会場の来場者総数は9,163人。 生涯学習センター登録団体数 74団体。 登録団体は横ばいの状況。構成員は高齢化が進み、今後は団体の維持が課題となる。 これまで生涯教育は多くが個人の学びが目的であったが、行政が開催する講座参加者・団体が生涯学習センターへ団体登録をしていただき、例えば生涯学習センターが夏休み期間中に実施する子ども達の体験活動(陶芸や木工など)にボランティアとして手伝っていただいたり、また講座を開いてもらうなど、その学びを地域社会に還元する仕組みとして活用できた。	B+		
	4 だれもが利用しやすい生涯学習施設の整備・充実	生涯学習施設の修繕 スポーツ施設電気設備整備、体育館床メンテナンス等の実施	施設利用者の状況 施設の老朽部分を定期的に修繕し安全に利用できるようにする。健康意識の高まりなど健康体操、教室を開催し施設利用稼働率の向上を図る	生涯学習施設では、センターちくさのドア改修や手すり設置など高齢者や身体に障がいのある方が利用しやすいように修繕を実施した。 野球場、体育館、プール(各3カ所)の利用状況は、23年度147,709人であったが、24年度は154,578人。	B-		

平成25年度（24年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《社会教育》

基本目標 1 共に学び共に支えあう宍粟の生涯学習の推進

※評価指標

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
2 子どもと青少年の健やかな成長を支援	1	地域で過ごす時間を増やす成長スタイルの推進 放課後子ども教室の開催	開催日数、参加者の状況 11小学校区（全18校）、全841日開催。 山崎（80日）、城下（80日）、戸原（40日）、河東（80日）、神野（80日）、伊水/都多（80日）、菅野/土万（80日）、神戸/染河内（102日）、下三方/三方/繁盛（99日）、波賀/野原/道谷（80日）、千種（40日）	子どもの人数が減少する中、地域で安全に安心して遊べる居場所をつくるため全小学校区でボランティアの協力を得て実施できた。	A	<p>・放課後子ども教室の開催日数が少ない校区がある。ボランティアの状況もあると思うが、検討してほしい。</p> <p>・今後も、家庭、地域の方々の協力を得て、学校園所と連携しながら、青少年の健全育成に努めてほしい。</p>	B+
	2	家族や親子で体験できる活動の充実 夏休み子ども体験教室、工作教室などの開催	開催教室数、参加者数 土曜なんでも探検隊、夏休みワクワク講座、夏休み子ども教室、絵手紙教室、粘土細工教室、工作教室などを開催。	日頃体験できないものづくりを体験し、家庭で体験を語り一緒に工作をするなど親子のふれあいにつなげられた。 16講座、延べ539人が参加。	B+		
	3	青少年健全育成リーダーの発掘と資質向上研修の推進 青少年育成委員会の委嘱、研修会の開催 学遊館のチャレンジ5DAY S、一宮の異年齢交遊塾へ学生指導者を募り、地域の活動リーダー育成を図る	育成委員研修会等の開催 中学校区に育成委員を委嘱し、各校区で青少年健全育成に努めた。研修会を10回開催。活動を知ってもらうよう「育成センターだより」を10回発行、広報紙にも情報掲載した。	育成委員の研修などを実施し、育成委員の資質向上に努めた。 青少年活動事業に併せた青年指導者の育成を行い、将来のリーダー養成につなげた。	B+		
	4	学校園所・家庭・地域と連携した子どもと青少年の学習の支援 青少年育成委員会会議 放課後子ども教室の開催 中学校区育成委員会の活動	開催回数と参加者数 指導等実施回数 各中学校区において定期巡回を40回、花火大会など屋外イベントに合わせた特別巡回活動を25回実施した。情報交換のため、育成委員会会議を開催した。	放課後子ども教室は全校区 841日の開催となった。 指導巡回を実施し、青少年の相談対応や健全育成に努めた。 定期巡回 40回実施 特別巡回 25回実施	B+		

平成25年度（24年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《社会教育》

基本目標 1 共に学び共に支えあう宍粟の生涯学習の推進

※評価指標

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
3 人権を文化として高める取組の推進	1 学校園所・地域・関係機関と連携した人権教育の推進	宍粟市人権・同和教育研究協議会事業の実施 PTCAフォーラムの開催	教室等実施状況 社会教育関係団体と小学校、中学校、社会教育課が事業内容の意見交換、協議を実施し、各年齢層の学習や子どもたちが学ぶ場や体験することなど仲間づくり、人づくりにつながるような学習を実践する。	PTCAフォーラムを開催し、各学校園所の取組の報告や近年のスマートフォンの利用に潜む危険性などの講演を聴講し、子どもの周りにおける課題を学習、地域での見守りの大切さなど学習した。 研修会 7回 約660人参加	B+		B+
	2 人権を尊重した地域づくりや交流活動の支援	生涯学習推進協議会活動補助金 地域指定実践発表会の開催	各地域での学習会、発表会の状況 各生涯学習推進協議会において、ビデオ研修や講演会を開催。意見交換や感想をまとめるなど学習を実践している。各生推協において1年の学習の成果を発表するなど地域内の情報交換を行うことで次年度の取組への参考となっている。西播磨地区人権教育研究協議会の地域指定による発表を行い、地域の取組を見直し、ひとつづくり地域づくりにつなげるようにしている。	各生推協や自治会において学習会の実施と年度末に生推協の成果発表を実施し、各地域の情報交換を実施した。 生推協研修会等活动回数 164回 各自治会の取組も基本理念を持った中での取組を依頼しているが、市として、高齢者や障がいのある方も参加しやすい配慮をして事業を組むことも人権啓発であり、今後、そういう指導者（リーダー）の育成も検討していく。	B+		
	3 人権教育の推進と啓発活動の充実	差別をなくそう県民運動推進月間の啓発事業実施 人権週間における人権啓発事業開催	啓発事業実施状況 8月の差別を無くそう市民運動月間において、人権の夕べを開催し市民の人権意識高揚の啓発を行う。同様に各生涯学習事務所を中心に講演会、映画会を開催し、人権啓発を行った。12月の人権週間において、講演会、ヒューマンライツコンサートを開催し人権に関する市民啓発を実践した。	8月・12月の推進月間等における講演会、映画会等に多くの市民に参加いただき、人権を尊重するまちづくりの取組の啓発を実施することができた。 8月推進月間 12月人権週間 8月、12月に各4会場において、講演会、映画会、コンサート等を開催	B-		

平成25年度（24年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《社会教育》

基本目標 1 共に学び共に支えあう宍粟の生涯学習の推進

※評価指標

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
4 地域の歴史や伝統文化の継承	1 地域の歴史・文化に関する学習や展示と講座の充実	歴史講座の開催 歴史資料館等常設展示 郷土資料館特別展示（山崎八幡神社と御形神社の社宝展）	講座実施状況、参加者数 宍粟の文化財や歴史をたどる「歴史講座」を開催し、市民が歴史などにふれる機会を提供した。 市内に存在する文化財資料展示することで、宍粟市の歴史や文化を知る機会を提供した。 市民等が所蔵される貴重な文化財を借受け、特別展示を開催した。 歴史講座実施回数 5回	宍粟市の歴史や文化を市民に知っていただく機会づくりとして実施できた。 市民が興味を持って、たくさん参加してもらえるような講座、展示内容の研究、工夫が必要である。 歴史講座 5講座実施	B-	<ul style="list-style-type: none"> 市内の各種まつりや行事などの際に立ち寄ってもらえるような、文化財の展示場所が必要ではないかと思うので検討してほしい。 文化財のPRとともに、市内文化財でも県指定になるものもあると思う。市内で国の重要文化財も1点のみであり、もっと重要文化財を発掘してほしい。 獅子舞やチャンチャコ踊りなど、少子化や指導者の高齢化などで継続が困難になってきている。補助のみでなく、存続を地域まかせにすることなく、例えば市の無形文化財に指定し、市とタイアップしながら、お互いに知恵を出す場づくりや、実際にそのような場を持ってほしい。 	B-
	2 歴史・文化遺産の体系的な保存整理と調査研究の推進	山崎小学校ほか文化財発掘調査	埋蔵文化財発掘調査状況 山崎小学校建替えに伴う文化財調査を実施し、埋蔵文化財の記録、出土物の整理・保管に努めた。	市内の文化財調査は開発に関するものが主となっている。宍粟市には保存すべき文化財が多くあり、文化保存のための調査と発掘品の保存、調査に主眼をおく取組が必要になってきている。	B-		
	3 芸術・文化活動の振興	宍粟市美術展、文化展の開催 伝統民俗芸能保存活動事業補助金交付	出展状況、来場者の状況 交付団体数 美術展、文化展への出品の状況は、総括的にはほぼ横ばいの状況である。個別部門では写真の出品数が増加しているが、全体的には会員の固定化、高齢化などにより出品数はのび悩んでいると思われる。 平成24年度の美術展文化展等の来場者数は9,163人となっている。	芸術活動等に取組む市民の発表の場として美術展、文化展が開催できた。 観覧者も芸術活動に興味を持つ機会の提供を行うことができた。 伝統民俗芸能の保存と前述の芸術活動者は少子高齢化の影響で後継者などの課題がでてきている状況にある。 市美術展出品数 5部門 240点 文化展等来場者数 9,163人 補助金交付団体数 22団体	B-		

平成25年度（24年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《社会教育》

基本目標 1 共に学び共に支えあう宍粟の生涯学習の推進

※評価指標

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員の意見・感想	委員評価	
5本に親しみ知りたい情報を得られる環境の充実	1	計画的な蔵書・管理の充実	図書館利用者数の動向 貸出冊数の状況	貸出冊数 利用者・登録者数 図書の貸出冊数は、112,163冊で推移している。図書館・3図書室の蔵書数合計は、24年度当初 123,953冊であったが市町村振興協会交付金を加え購入し、年度末で127,838冊、3,885冊増加となった。図書館利用登録者は、23年度に4,644人であったが、4,792人に増加した。	平成23年度よりネットワークによる蔵書管理ができ、図書館・室の近い施設で図書の貸出が可能となった。ホームページ閲覧、各施設間のメール便による図書の移送も利用者の利便を高めている。 図書利用登録者数 4,792人 貸し出し冊数 112,163冊	B+	B+	
	2	図書館施設や機能の充実	移動図書館車更新事業	運行回数 利用者数 移動図書館車は、蔦沢地区、波賀町、千種町地域の図書館・図書室に遠い地域の方への利便性を高めるため年間26日の運行から平成24年度一宮町繁盛地区へ運行を増やし49日の稼働状況となった。平成23年度に移動図書館車購入事業により、積載冊数が1,500冊から1,800冊に増え、移動図書館車運行事業の充実を図った。	移動図書館車の整備により、積載数が増加し、また、巡回地域を増やすことで図書館等から遠方の地域の方にも利用しやすいようになっている。今後は、図書館の建物が手狭であり、閲覧や来館者の利用しやすい施設の研究の必要が課題になってきている。 図書館車運行日数 49日	A		・図書館はどこも月曜日が休館日であるが、合併前の波賀町では夜間も開館していたのが利用できなくなり不便になったとの声がある。また、月曜日が祝日に重なることが多く、その場合は翌火曜日でも市内全館が休館となっている。検討してほしい。 ・図書の検索システムや、借りた館以外でも返却ができるようになったこと、また市内の他の館から取り寄せできるようになったことは良いことだと思う。
	3	講演会等の開催や図書館司書による読書活動の推進	図書館ボランティア研修 絵本等読聞かせ派遣事業 絵本、お話のじかん	派遣数及び参加者数 図書館運営に関するボランティアの育成を目的に研修会を開催。訪問する小学校、幼稚園、保育所の読み聞かせ事業と毎週土曜日の絵本の時間、おはなしのじかんなど子どもたちが本に触れ、本の楽しさを知るための取組を実施した。読み聞かせ派遣依頼件数 来館22件、訪問8件 おはなしのじかん(20回)、絵本の時間(22回) 参加者数約15人/回	小学校、幼稚園、保育所が図書館に来館や司書が学校等訪問する取組が定着してきている。幼いころから図書館や絵本に慣れ親しむ環境づくりのため、施設の整備やマンパワーの活用について取組を続ける必要がある。 研修会実施回数 3回 読み聞かせ実施回数 来館22件 訪問8件 絵本のじかん開催回数 22回 お話のじかん開催回数 20回	B+		

平成25年度（24年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《社会教育》

基本目標 2 「元気な宍粟」の実現をめざした生涯スポーツ活動の推進

※評価指標

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
1 生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進	1 みんなが一緒に参加・交流できるニュースポーツやレクリエーション活動の推進	スポーツ推進員研修会 ペタンク、グラウンドゴルフ大会の開催	研修会参加者数及びスポーツ大会等の状況 市民が健康で明るく、友好的に生活するため、各種スポーツを通じたひとづくりを実践している。スポーツ推進員においては、西播磨、県の研修会などに参加しニュースポーツの開拓に努め、市民への指導など実践している。また、体育協会に加盟するスポーツ団体では大会など実施し、スポーツを通じた健康づくり、仲間づくり、ひとづくりを実践している。	地域における交流運動事業やスポーツ事業におけるインストラクターとして活躍いただいた。自治会、スポーツクラブ21など地域の団体においてペタンク大会など開催し、地域で子どもから高齢者まで交流できる事業が実施できている。	B+	・スポーツクラブ21について活動が少ない地区もあるが、生涯スポーツを考えるならば、これを広めていかないといけないと思う。 ・市内全クラブをコーディネートできる統括的なものが必要だと思う。各スポーツクラブ21の情報交換の場など検討が必要だと思う。	B+
	2 少年スポーツ団体を通じた交流活動の推進	スポーツクラブ21 健康教室等の開催	活動実施状況 各地区スポーツクラブ21の活動により仲間づくり、ひとづくりを实践し、元気で健康な生活に結びつけ、スポーツ交流を通じた地域づくりに寄与する。高齢者や地域グループの活動の中に、健康体操や運動指導を取り入れ、健康で活き活きとした生活ができるようにつなげていく。	スポーツクラブ21など地域で活動する団体のほか、バレーやソフトボールなど地域を越えて少年少女のスポーツクラブでの交流活動ができている。また、健康指導のための体操教室や健康づくり事業を健康増進課と共催や生涯学習講座で実施するなど取組んでいる。 活動回数 17スポーツクラブ 1,109回 県も地域でスポーツ活動を広めていこうとしており、誰もが健康づくりの意識をもつ、その意識づくりが必要と感じており、検討していく。	B+		
2 競技スポーツの強化と振興	1 宍粟市体育協会や少年スポーツ団体、学校園所はもとより、宍粟市にゆかりのある競技者と連携した少年期からのスポーツに対する意欲と競技力の向上と指導者の育成	スポーツ奨励金の交付 講習会の開催	交付の状況 団体、個人競技において全国大会規模以上の協議会へ出場する選手へ奨励金を交付し、選手の活躍など激励を行う。その活躍を広く市民にお知らせし宍粟市民の誇りと郷土愛につなげていく。また、選手がその体験を活かして講習会、講演会など地域学習へ還元していただくなど継続した交流を図り、さらに後進の指導や、指導者としても活躍につなげていく。	平成24年度は、17の個人・団体から35件の申請があり、奨励金を交付した。市長、教育長を表敬訪問いただく場合など、新聞・広報取材を行い選手や功績を紹介している。また、その選手により実技指導、後進の育成や体験談を講演いただくことにより、市民への還元につなげていくようにしている。 シッティングバレーの合宿練習をしていただき子ども達が見学させてもらったり、他にプロサッカーチーム（ヴィッセル神戸）の選手に来てもらって子ども達が指導を受けるなど、生涯スポーツ意識の高揚を図った。 奨励金交付 2団体 17人 600,000円	A	・宍粟のゆかりの競技者との連携とあり、昨年度のシッティングバレーのパラリンピック出場者などを招いての講演など、今後も検討して実施してほしい。 ・数年前まではなかったカヌーを活用した地域づくりも進められており、評価できると思う。また市ウォーキング大会も始めているが、今後も各地の地域資源を活かした生涯スポーツの普及・推進に努めてほしい。	B+
	2 競技スポーツ大会の誘致活動の推進とスポーツ観戦の機会拡充	カヌー高校総体予選の開催 少年野球地区予選会	大会誘致状況 音水湖のカヌー競技場を会場とした高校総体の近畿予選会などを実施している。また、地域の子どもたちが直接、カヌー競技を見学することで、スポーツなどの目標を持つ機会にふれることができる。	カヌー競技場を活かした高校総体の予選会や市内の野球場での少年野球地区予選会を実施し、子どもたちにスポーツへの取組や目標を与えられる機会づくりとなった。今後においても、市内施設での競技スポーツの誘致などを推進していく。	B-		

平成25年度（24年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《社会教育》

基本目標 2 「元氣な宍粟」の実現をめざした生涯スポーツ活動の推進

※評価指標

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	事務事業名 (評価項目)	評価内容	活動指標	取組の成果等	自己評価	委員の意見・感想	委員評価
3 地域資源を活かしたスポーツ環境の充実	1	スキーやカヌー等、地域の自然や人材を活かした体験教室・講習会・各種大会等の開催	夏休みカヌー教室の開催やウォーキング大会の実施	参加者数の状況 音水湖カヌークラブによるカヌー教室を開催し、カヌーの楽しさや競技スポーツにふれる機会を提供する。一宮を会場に実施してきたウォーキング大会は、市内の名所、名跡を併せ、楽しんで参加できる大会となるように市全体の事業として24年度から開催地を持ちまわるようにした。	市内の2スキー場や音水湖のカヌーなど地域資源を活用したスポーツ教室を開催し、子どもたちが競技スポーツにふれる機会の提供ができた。 今後は各種大会など積極的に誘致するなど資源、施設の利用活性化を図っていきたい。 カヌー教室 少年少女カヌー教室 2回 49名参加 講習会、交流事業 ウォーキング大会 10月8日（一宮町福知） 171名参加	B+	B+
	2	観光イベントとの連携を図りながら、宍粟50名山を活用した登山やトレッキング等への参加の奨励と都市部との交流機会の充実	さつきマラソン、ロードレース、駅伝大会の開催	開催の状況 さつきマラソン、ロードレース、駅伝大会は、市内外の参加があるイベントとして定着している。また、地域資源である春の桜と新緑や地域のボランティアによる参加者の応援など「おもてなし」を実践し、都市との交流イベントにもなっている。宍粟市の人がらや豊かな自然を満喫してもらい、スポーツを通じた都市との交流事業となっている。	現在、山崎のさつきマラソンは成人の、一宮のロードレースは子どもの、そして千種はスキー、波賀はカヌーと、地域に特化したスポーツの取組としている。また、市ウォーキング大会を24年度は一宮で実施しているが、25年度は波賀を予定している。マラソン、ロードレースなどは個人、団体に活動した取組を発揮する場として、市内外の多くの参加者を得ているところであり、また、地域と一体となった応援やサポート体制については、スポーツ交流を通じた人づくり、地域づくりにつながっていると考えている。 各大会参加者数 さつきマラソン 2,375人 ロードレース 1,232人 駅伝大会 978人	A	
4 安全に活動できるスポーツ施設の整備	1	既存施設を計画的に改修・修繕を行い、安全でより長く有効に活用できる施設の整備	山崎スポーツセンター体育館改修 スポニックパークいちのみや温水プール制御盤の改修	施設改修状況と利用者の状況 山崎スポーツセンター体育館の軒下の張板が脱落し、利用者が危険であった。玄関の雨漏りなど合わせて改修を実施。スポニックパーク一宮のプール制御盤も老朽により機能維持のため改修を実施した。	施設修繕により市民が安心、安全に利用できるようになった。 市内の施設は設置から経年による老朽が進んでいるものが多くあり、全ての施設における改修計画が必要になってきている。 体育施設利用者数 山崎スポーツセンター 46,728人 スポニックパークいちのみや 72,502人 開館時間は課題と考えており、検討したい。	B+	B+
	2	学校体育施設等の利用促進	スポーツクラブ21と連携したスポーツ行事の実施	利用活動の状況 スポーツクラブ21は、小学校区を基盤に組織されている。その活動拠点は学校運動場や体育館、または、地域の自治会グラウンドなどとなり、学校施設の利用が活動の基盤になっている。グラウンドゴルフ、ソフトボール、キンボールなど地域住民が親しみやすいスポーツ交流を実践している。	スポーツクラブ21の活動や少年少女バレー、PTAバレー活動など学校体育施設を利用した活動ができている。	B+	
	3	将来を見据えたスポーツ施設のあり方の検討と機能分担等による利便性の向上	利用の状況等	利用の状況等 現有施設の利用については、市民の利用が重複することがあるため、有効、効率的な使用ができるよう年度当初に関係団体と利用調整を協議している。 市内には複数の施設があるが、各地域、利用者ニーズの対応し各施設とも市民活動に重要な役割を果たしている。	市内施設は、市民が有効かつ効果的に利用できるように調整が図れている。 各施設の利用状況も団体・協会の大会から健康指導・教室などに使用されている状況にある。	B+	

・さつきマラソンやロードレースなど、市内の特定場所での実施ではなく持ち回りでの開催等について検討してほしい。

・数年前まではなかったカヌーを活用した地域づくりも進められており、評価できると思う。また市ウォーキング大会も始めているが、今後も各地の地域資源を活かした生涯スポーツの普及・推進に努めてほしい。

・管理上の問題があると思うが、使用者の利便性向上の観点から、市内体育施設の開館時間を早めることなど、市民（利用者）のニーズを把握し、対応について検討してほしい。

・生涯スポーツの普及・推進には地域のスポーツクラブ21の果たす役割は大きいと思う。各スポーツクラブの情報交換会の開催など、地域住民がより親しみやすいスポーツ活動ができるよう努めてほしい。